

本紙スクープ 驚愕の事実が、 あきらかに。...

塗料を薄めないと約束している2社
でも価格の違いがでてしまっています。
これはどうしてでしょうか?

ですが、そういふ施工では、塗料を薄めた事で耐久性が落ちているんです。施工後3年も経てば、きちんとした塗装との差がでてくる事となります。後になつて愕然とされる方が多いですね。

同じ材料や、同じ行程でも価格が違う事もあるようですが？

何故、業者によつて金額が大きく違うのですか?

特集 みんなが知りたい 塗装の本当の金額：



難しい事と感じるかもしませんが、まずは慌てずじっくりと話を聞くことです。そして施工内容の見積もりに疑問を感じたら質問してみて下さい。きちんとした塗装会社であれば

では、私たちは『適正価格』や『適正な仕事』をどのようにして見分けなければならないのでしょうか？

先程、申し上げたように『適正価格』というのがキーワードです。塗装材料にも『適正価格』があるよう^なに塗装作業・塗装期間において『適正価格』があると言う事を忘れないでください。性能のきちんとした塗装を使い、技術のきちんとした職人が施工すればそれなりの価格になるということです。当然、適正価格だからといって良い業者とは限ません！大事なのは適正な仕事を適正な価格でできているかどうかです！

どうすれば失敗しない業者選びができるのでしょうか?

もちろん安くするなら自社の社員で施工行うのが一番です。ですが繁盛期の対応や工期の短縮などを考慮すると下請けに仕事をしているのが悪いともいえません。それよりも利幅を多く取っているにも関わらず、お客様に金額を安く出す為に下請け業者に無理させていいような会社ですね。これが一番お客様にわかりにくい。

お客様は適正価格を払っているのに実際施工する下請け業者は適正価格をもらっていない。こうなると、どこで手を抜かれるかかりません。お客様も業者もどちらも不幸なる最悪のパターンですね。

その場合は会社の形態や方針が理由でしょうね。下請け業者さんや協力会社さんにおいしている会社は当然高くなります。それ仕事を受けている会社が利幅（マージン）取つて下請け業者に発注するのでその分自分で行つてている場合より利幅分（1割～3割高くなつてているんです。中には6割程も利

見積書 C	100万円
工事価格	利益
50万円	50万円

下請け業者を使った価格 100万円

見積書 A	100万円
工事価格	利益
80万円	20万円
適正価格100万円	

工事価格
(材料代
が不足)

0万円

100万円

100万円～80万円程度の
塗り替えの

万円程度の 塗り替えの場合(一例)

悲しい事ですが、ここまでしなければ本当に満足のいく塗装会社に辿り着けないのがいまの塗装業界なのではないでしょうか。塗装をお考えの方には面倒ですが、ぜひ力をついていただいて良い塗装会社と巡り合つてください。頑張ります。

れば作業内容、使用塗料等の適正価格を説いていただけるはずです。

さらに一社だけでなく、いくつかの塗装社で見積もりを取ってください。それらを比べ、話を聞けばおのずと『適正価格』や『適正な仕事』というものが見えてくるはず。